

谈交边 思考边

初级 日本事情

話そう
考えよう
初級日本事情

教师
用书

〔日〕福岡日本語中心
「日本事情」编写组 著

出版说明

中日两国一衣带水，有着悠久的交流历史。近年来，随着我国经济的快速发展，两国间的交流越发频繁。正是在这种不断交流的过程中，如何正确地认识、充分地理解对方就成为了亟待解决的问题。

为此，在我国出版了很多介绍日本概况、日本世情的图书。这些书多是以教程的形式出现，需要学习者大量阅读进而从中获得知识和信息。而我社由日本スリーエーネットワーク出版社引进的《边交谈边思考 日本初级事情》及《边交谈边思考 日本初级事情 教师用书》，则是以图表、图片、漫画的形式深入浅出地介绍日本的生活、地理、社会的情况，令人有亲临日本的感觉。

本书主要针对初中级水平的日语学习者。对于初级学习者而言，通过学习本书既可以了解日本社会生活，又可以提高日语阅读、写作、会话的水平；而对于中级学习者而言，本书有助于引导学习者进一步思考、深入理解日本社会生活。

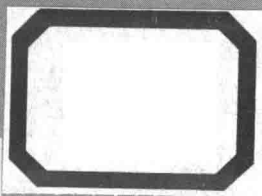
全书最大的特点在于，无论是初级水平的学习者还是中级水平的学习者通过《边交谈边思考 日本初级事情》及《边交谈边思考 日本初级事情 教师用书》的搭配使用，既能从中获得大量实用的知识和信息，又能在其引导下进一步自主学习。

《边交谈边思考 日本初级事情》一书的内容由三部分组成：第一部分是“生活篇”，对于处于入门阶段、初级阶段的学习者而言，能够增加在日本生活时所必备的生活常识；第二部分“地理篇”和第三部分“社会篇”，有助于学习者了解日本现代社会的特点。本书还通过「書きましょう」「考えましょう」「話しましょう」以及「知っていますか」的练习形式提高学习者的语言能力，引发学习者思考。

《边交谈边思考 日本初级事情 教师用书》也是由同样的三部分构成，但书中既包含对于老师授课时的指导性内容，也有大量相关的知识性内容及统计图表。应该说，《边交谈边思考 日本初级事情 教师用书》既适合教师备课之用，也适合学习者进一步扩大知识量而使用。

在引进《边交谈边思考 日本初级事情》及《边交谈边思考 日本初级事情 教师用书》的过程中，未对原文添加任何说明性文字。这是因为，作为著者编写这套书时并不希望学习者将其作为教程加以学习、记忆，而是希望这套书能够引起读者的思考，进而锻炼会话、写作等方面的语言能力，通过学习最终了解日本的社会生活。即在产生兴趣的前提下，以本套书所提供的知识和信息为基础，自主学习。

外语教学与研究出版社



边交谈 边思考

話そう
考えよう
初級 日本事情

初级 日本事情

(日) 福岡日本語中心 「日本事情」 编写组 著

教师
用书

5/11/82 9/01

外语教学与研究出版社
北京

京权图字 01 - 2004 - 5473

图书在版编目(CIP)数据

边交谈边思考初级日本事情 教师用书/(日)福岡日本語中心「日本事情」编写组著. —北京: 外语教学与研究出版社, 2004. 10

ISBN 7 - 5600 - 4494 - 8

I. 边… II. 福… III. 日语—教学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 106510 号

©福岡日本語中心「日本事情」编写组

日本 3A 出版社出版

1997

本出版物只限在中华人民共和国境内销售、使用

边交谈边思考

初级日本事情 教师用书

(日)福岡日本語中心「日本事情」编写组 著

* * *

责任编辑: 倪 芳

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 北京外国语大学印刷厂

开 本: 787×1092 1/16

印 张: 3.75

版 次: 2004 年 10 月第 1 版 2004 年 10 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 7 - 5600 - 4494 - 8/G·2366

定 价: 5.90 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

この教科書を使うにあたって

日本事情をどう考えるのか

現在、日本語学校では、「日本事情」の授業はあまり重要視されていない。しかし、言語はその国の文化、歴史、風俗、習慣の総和なのだから、言葉だけを覚えればよいということにはならないだろう。

そうは言っても、「日本事情」で何を教えるかということになると、はっきりしない。いわゆる「日本事情」の教科書を見ると、

- 1 文化を中心にしたもの（生け花・茶・歌舞伎なども含めて）
- 2 生活を中心にしたもの（冠婚葬祭・風俗・習慣など）
- 3 日本の歴史を教えるもの

に大別できるのだが、時にはこれをミックスしたものもある。

現代日本人の生活に慣れるためのものは、これとは別に『入郷随俗』（全国社会福祉協議会）のような生活指導書として出され、いわゆる「日本事情」とは異なるようである。

こうした状況を踏まえて、私たちは、私たちの「日本事情」をこう考えた。

なによりも「現代日本を理解させること」にあると。

留・就学生が日本へ来た目的の大半は、「現代日本の成長の秘密は何なのか」を知り、それを自分のために生かすことに置かれている。

だとすれば、例えば、「高度成長とは」と聞かれたときに、私たちはどう答えるのだろうか。

日本語教師の年齢を考えると、20代から40代前半という人が大部分なのだから、「高度成長」の時代に育った人たちではある。しかし、「高度成長とは何か」を考えたことは少なかったろうし、その時代を当然のものとして生き続けてきたわけである。生まれた時から数パーセントの成長率と物価上昇の中にいたのだから、それを考えたことがあるのは特別な立場にあった人だけだといってよいだろう。しかし、それでも生徒たちはそれを知りたいのである。

ひるがえってみると、中学や高校で日本の歴史を習っても、せいぜい「明治維新」ぐらいまで、ひどい場合には「室町時代」でその学年を終わった、という経験をもっているはずである。茶の湯や生け花をやった人も、そう多くはないし、ましてやヨーロッパ系の学習者の中に一部見られるように、能や歌舞伎に興味を持つという教師も、そんなにいるわけでもない。

また、日本人全体を見ても、古典芸能や伝統文化を楽しむ人はあまりいない。むしろ、それを知らない日本人が圧倒的多数なのである。

だとすれば、アジア系の学習者が圧倒的に多い日本語学校の実情からすれば、むしろ現代日本人をどれだけ理解してもらおうかを考えた方が、同じ努力でも無駄がないと言えるだろう。

つまり、生徒たちの望む「日本とは」すなわち「現代日本と日本人とは」にどれだけ肉薄するかを求めたいとしたのである。

このため、2年目に高校の「現代社会」を読むために、最初の一年に何を教えるかから、手探りを始めた。私たちの学校では、初級（6か月）、中級Ⅰ（6か月）、中級Ⅱ（6か月）、上級（6か月）と分けている。

初級は、日本語力がほとんどゼロの生徒たちから始まるのだから、一般的生活知識や、日常生活の指導と日本語力の進み方に合わせて基礎知識を教えよう。

中級Ⅰでは、いわゆる地理的分野を産業を中心に3か月教える。残りの3か月で日本史を時代区分と対外交流史に中心を置いて概観する。そして、明治維新と敗戦を二つのメルクマールとして、大日本帝国憲法と日本国憲法の違いは教えておきたいと考えた、こうして、「現代社会」の教科書を読む基礎にしたいと考えてやってきた。この方向は誤っていなかったと思っている。

この初級の教科書については、幸い、1994年度日本語教育振興協会の教材研究補助金をつけていただいたので、3回の改訂作業によって基の形ができあがった。それでも一般的に利用していただけるようにするため、今回、もう一度全面改訂作業を行った。また、教科書を使って授業を担当した福岡日本語センターの教師すべての経験も加えた。

語学力が低くても、大人である学習者に対して、内容を低位に置くことはできない。文型の簡単なものや語彙は、他の教科書にはなくても生活に必要なものから教えてゆくことを原則とした。また、カタカナ語の訓練は、各授業で協同してやらないとなかなか身につかないので、これも初級で取り入れてみた。

来日3か月位からは、アルバイトができる学習者もいるので、これに必要な知識も入れてゆかなければならない。

いってみれば、初級の間は、生徒の日常生活のリズムに合わせて必要なことを教えたと思った。したがって、初級教科書そのものは簡単にして、時間内の生徒との交流で、内容のふくらみをつけてゆく方がよいとしたのである。

「何を書くか」より、「何を書かないか」に中心を置いて検討し、それを教室で展開し、ふくらませるように心がけてきた。

このため、指導案や必要事項はつけたが、これを「詰め込み知識」として記憶させるのではなく、これから2年間、繰り返し、レベルを高めながら教えてゆくのだということを念頭においてほしい。

なお初級教科書であっても、数字は常に新しいものを使うことを原則として、新聞の切りぬき、『日本国勢図会』各年版、『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』など、新しいものは座右に置いた。

もう一度まとめておきたい。

「何を教えるか」より「何を教えないか」を念頭においてこの教科書を使ってほしい。この教科書は、教室内での生徒との対話、生徒自身の記入によって完成するものなのだ。また、すべて記憶しなくても、必要な箇所が思い出せればよい。

本書の数字に疑問があるときには、どちらが新しいかを考えてほしい。たとえば集団

的な稲作は前3世紀頃と言われていたが、三内丸山遺跡の発掘で一挙に時代がさかのぼった。「前3世紀頃」というのは、それまでに見つかった遺跡で最も古いものがそうであったとというに過ぎない。山の高さでもエベレストが1994年に再確認されたように、国土地理院も国内の測量を続けており、地図が訂正されることもある。「絶対」という言葉も、常に、「今は」という限定詞がついていることを忘れないようにと自戒している。

そして教師は、生徒自身の生活と、来日してからの期間、そして日本での生活にあたっての必要度を頭に置いて、授業を進めてほしい。

なお、本書の出版に当たり文部省、日本語教育振興協会の快諾を頂きました。また面倒な作業をしていただいたスリーエーネットワークのみなさん、とりわけ稗圃慶子さんには資料の再整備などご苦勞をかけました。みなさんのご厚意に厚くお礼申し上げます。

岩崎 隆次郎

追記

改訂にあたってできる限り新しい数字にしたかったが、次の国勢調査は2000年にあたるので大幅に変えるのは次回にゆずることになってしまった。

90年代前半とは生徒たちの気質や知識は随分違ったものになってきている。少子化は若い世代のあり様を世界的に変えてしまったようだ。またアジア各国の変化のスピードには驚かされるものがある。

◆各章共通事項

本書は、内容的に三つに区切りをつけた。

第一部 生 活

第二部 地 理

第三部 社 会

各章毎に、その章の「学習目標」、「授業で準備するもの」、つまり教師が心得ておくべきことの順で見出しをつけておいた。

しかし教師が心得ておくべきことは、全部生徒に教えるということではない。自分が知っていることと、生徒に教えることは区別して欲しい。この教科書のねらいは「詰め込みにしない」「生徒との対話を広げる」「能力と進捗を確認して進める」ことにある。

何を教えるかを先に決めるのではなく、時間に合わせて教える内容を決める。したがって、残る部分が出るのも止むを得ない。「何を教えないか」のほうが大切だからである。

*「教室内で、学習者に問題提起し、話し合いの時間を持つ」ほうがよいものについてつけてある。

この教科書では、分ち書きを採用していない。現在の日本語初級教科書は、ほとんどのものが分ち書きになっており、それがイントネーション学習の弊害になっていることが指摘される。意味の区切りを考えながら読む力を身につけさせるという意味から、あえて分ち書きをしていない。

学習者が来日してしばらくたつと、一種のカルチャーショックから起こる問題にぶつかることがある。いずれも、わざと悪いことをしようとしたわけではない場合が目立つ。普通の日本語の授業のときには教えにくいことだが、そういったトラブルを未然に防ぐことも、「初級日本事情」の役割である。ここでその例をいくつか挙げておく。

① 迷子

来日1か月を過ぎたころから多くなる。最初はまったく知らない土地なので注意して行動するが、慣れてくると気が緩んできて、目印を間違える。曲がり角を一つ間違えただけで、何時間かかってもうちにたどり着けなくなる。

② 放置自転車

捨てられたものと考えて、私物化してしまう人がいる。

最近は原付自転車やオートバイでも問題が起こっている。運転免許の有無も確かめた方がよい。母国の免許でのることもあるので注意が必要。

日本の若い人を見ればあまり言えないのだが、二人乗りは警官の不審尋問の対象になる。とくに50cc以下のオートバイ等は禁止であり、ヘルメットを被らなければ違反になる。不審尋問を受けると言葉の問題にとどまらず、中国の北の方の生徒はナイフをポケットに入れていたりするので不必要な取り調べを受けることもある。

③ 外国人登録証

出かけるときは外国人登録証を忘れないようにする。よくパスポートをもって、外国人登録証は家におく生徒がいるので注意する。

④ 生徒の変わり方に注意を

90年代前半の中国人生徒はビートルズを知らないものも多かったが、最近ではアジア各国とも日本の若い世代とあまり変わらなくなっている。思いこみで対処しない方がよい。

ファミコンやパソコンも同様だし、あと数年すると、アジアの他の国の学生の方が進んでしまうかも知れない。インターネット普及の25地域・国の比較では、インドはトップクラス、日本はベストテンにも入っていない。

⑤ 万引き

来日3～6か月の学習者に例がある。店やスーパーには防犯カメラや、その他防犯器具が設置してある。しかしスーパーやデパートでは広い店内に商品が山のようにあり、それを自由に手に取ることができる。また、店員もそれほど多くないので、気持ちが動いてしまうことがあるようだ。

⑥ アルバイト先の経営者とのトラブル

来日して1年ぐらい経つと、アルバイト先などで、日本人経営者と衝突して精神的に不安定になる学習者がいる。日本の生活に慣れて、日本人の物の考え方や経営方法に対して批判的な見方もできるようになってくる。一方、経営者側が学習者の日本語力を過大に評価しやすいのもこの時期である。日常会話は不自由がなくても、抽象的な事柄や省略の多い日本語会話は理解できないでいる段階だから、学習者にわからない言葉で指図したことに気がつかずに、もし指図どおりに動かないと、学習者に厳しくあたる。このようなことが重なって、日本社会に適応が遅れることになる学習者も多い。

⑦ 大家さんや近所の人とのつきあい

家賃を払っているとはいえ私物ではないのだから、できるだけきれいに使わなければならない。騒音に気をつけることも必要である。

また、賃貸時の契約を守るよう指導する。

外国語の会話は耳について実際よりやかましく聞こえがちだということも伝える。

目 次

第一部＊生 活

1	住所を覚える	10
2	電話をかける	11
3	手紙を出す	13
4	日本の家に住む	14
5	あなたのまわり	16
6	買い物をする	17
7	銀行へ行く	17
8	食事に行く	18
9	乗り物に乗る	19
10	保険に入る	20
11	仕事をする	21
	こうやっています	22

第二部＊地 理

1	国土	24
2	山と川	25
3	気候	26
4	日本の一年	27
5	人口	27
	こうやっています	34

第三部＊社 会

1	衣服	36
2	食物	39
3	住居	44
4	出生率と平均寿命	44
5	ライフ・サイクル	46
6	結婚と離婚	47
7	日本人の一日	48
8	便利さとゆとり	49
9	教育	51
10	労働と賃金	52
11	貯蓄	53

第一部 * 生 活

第一部＊生活

第一部では、実生活に必要な知識を身につけることを目標とする。それ以上の知識はこの段階では必要ない。細かに教えるのは時間的に難しいし、理解できないだろう。

1. 住所を覚える

目標

自分の住所と学校の住所を身につける。

授業で準備するもの

日本地図、学校の近くの地図もあると便利。大きいものがよい。

1 住所

3 ページの記入欄に学習者の学校（所属先）の住所と学校名を記入させる。学校の住所は、自分の住所とともに、ごく初期の段階で身につけるべき重要事項である。読み方と書き方を完全にマスターさせる。学校を、緊急時はもちろん、いつでも手軽に連絡できる場所としてとらえさせる。

なお、災害時の集合場所を学校で決めて、教えておくといよい。

レベルに合わせてひらがな書きやローマ字書きを選択することもあるだろうが、できるだけ漢字で読み書きできるようにさせたい。

一都一道二府四十三県

この段階では、東京都、北海道、大阪府、京都府と、自分の住んでいる都道府県の位置を白地図で確認させる。自分は今日本のどの辺にいいのか、南の方なのか、北の方なのか、という視点から、日本の国の形を頭に入れさせる。「日本は南北に長い」ということは、あとで勉強する「地理」や「食べ物」、「生活様式」にも大きくかかわってくる。

「都・道・府・県」を外国語に訳すと意味範囲がずれるので、注意が必要である。

市・区・町・村

一口に「区」と言っても、東京の23区、「市」の下位分類としての「区」（政令指定都市）、

部落内を細分化した単位としての「区」などいろいろある。この区別は特に教えない。自分の住んでいる地域の近くにある「区」を身近な例として取り上げればよい。

番地、その他

全部覚えさせるのが目的ではない。自分のうちの住所を書くときに使うものだけを取り上げる。必要ならば書き加える。

「マンション」「アパート」などの他に、「ハイツ」「コーポ」「メゾン」などもある。

教科書にあるのは一つの例である。

アパートの室番号は「～号室」「～号」とする。中国語では「～室」「～房」であるが、日本では使わないので注意する。

住所が書けないという学習者には、教師が聞き取るなどして見本を書いてやり、それを写させてもよい。とにかく、学校の住所と同じく、書き方と読み方を完全に覚えさせることが目標である。

郵便番号は、「3. 手紙を出す」の項で扱う。

2. 電話をかける

目標

自分の家と学校の電話番号を覚える。

電話番号が発音できるようになる。

授業で準備するもの

0 から 9 までの数字を大きく書いておく。

5 ページに必要な電話番号を書き込ませて、読み方も覚えさせる。緊急時に連絡をとる一つの手段としての電話番号である。

ハイフンは普通「～の」と発音することを教える。

数字を正確に発音できなければ、自分の連絡先を相手に伝えることはできない。特に長音、促音に注意しながら、滑らかに言えるようになるまで何度も練習させる。

【電話番号の数字】は、電話番号を読む際の数字の読み方である。数字には他の読み方（例えば「7（しち）」）もあるが、ここでは触れない。また「2」、「5」は（に）、（ごう）と伸ばして発音することもあるが、それはそれでよい。

個人の事情に合わせて、緊急連絡先や、今からよく使う番号を、書いて読めるようにさせる。

学習者の自宅（日本での連絡先）はもちろん、学校、アルバイト先等の電話番号は必ず覚えるようにさせる。

「家族の電話番号」は、特に「自宅」とは限らない。

学習者の自国の連絡先や勤務先、あるいは親しい人の電話番号を記入させる。

「TEL」「tel」は、アジアの学習者にも記号として理解させる。

国際電話番号（電話会社が異なっても同じ）

アジア		スリランカ	9 4	アフリカ	
日本	8 1	パキスタン	9 2	エジプト	2 0
韓国	8 2	イラン	9 8	南アフリカ	2 7
中国	8 6	アラブ首長国連邦	9 7 1	ヨーロッパ	
中国（台湾）	8 8 6	イスラエル	9 7 2	ロシア	7
中国（香港）	8 5 2			オランダ	3 1
フィリピン	6 3	南北アメリカ		ベルギー	3 2
マレーシア	6 0	アメリカ	1	フランス	3 3
シンガポール	6 5	カナダ	1	スペイン	3 4
インドネシア	6 2	ペルー	5 1	イタリア	3 9
ベトナム	8 4	メキシコ	5 2	スイス	4 1
タイ	6 6	ブラジル	5 5	オーストリア	4 3
ミャンマー	9 5			イギリス	4 4
バングラデシュ	8 8 0	オセアニア		デンマーク	4 5
ネパール	9 7 7	オーストラリア	6 1	スウェーデン	4 6
インド	9 1	ニュージーランド	6 4	ドイツ	4 9

3. 手紙を出す

目標

宛先をきちんと書けるようにする。

授業で準備するもの

はがき・絵はがき・封筒・エアメール用封筒など。

7 ページに練習欄を設けてあるが、別紙に練習させて、書き方をチェックしたほうがいい。

封筒・はがき共通事項

受取人の名前は、住所の字より大きく、必ず中央に書くように指導する。

「様」も縦書きなら名前の真下に、横書きなら真横に同じ大きさで書く。

中国語では、「収」と少し小さめに、受取人名に添えるようにしてやや下方に書くので、日本語の手紙でも「様」をずらして書いてしまう学習者がいる。注意して指導する。

「～様」のほかに「～先生」もよく使われるが、以下の理由で載せていない。

- ① この段階では、「～様」一つで充分である。
- ② だれに対して使うか、使用範囲を指定するのが難しい。
- ③ 中国語の「～先生」は、「～さん」「～様」の意味を持ち、初級段階の学習者が混同する恐れがある。

「〒」のマークは、日本にしかない。このマークを万国共通だと勘違いしている人はかなり多いが、郵政省の前身である「逓信省」の頭文字「テ」を図案化したものである。郵便番号の記号はいくつかあるが、代表的なものを示す。

はがきや封筒には、「〒」は書いてない。このマークの代わりに、郵便番号欄の小さい四角がある。

切手を貼る場所も、封筒、はがき、それぞれ決まっている。中国では、切手を裏に貼ることも認められているが、日本では受け取った人が無礼に感じる恐れもあるので、させないようにした方がよい。また、額の小さい切手を何枚もつなげて貼るのも、あまり好ましくないだろう。

エアメール用封筒の書き方の指導は、時間があればする。割愛する場合でも、学習者に「航空便」「エアメール」という語彙を覚えさせ、封筒の実物を見せる。

封筒

表に受取人の住所氏名、裏に自分の住所氏名を書くことを教える。漢字圏、非漢字圏とも差出人の住所も表に書く場合が多い。日本語の封筒の書き方とは異なるので、注意した方がよい。

「メ」は、封筒の裏に書くことを教える。

はがき

封筒と違い、差出人の住所氏名も表に書いて、本文は裏に書くことを教える。表に住所氏名と本文の両方を書いてしまい、裏は空白のまま、という失敗例も多くある。

絵はがきも、旅行の時など学習者がよく利用するものの一つである。もし時間があれば、その書き方も教えたい。注意点として、次のことが挙げられる。

- ① 普通のはがき同様、白紙の欄に住所氏名を書いて、きれいな絵や写真の上に文章を書き込んでしまう人がある。
- ② 右半分に住所氏名を書き、左側に文章を書いているものもある。住所氏名と文章の間に線などが何もないので、どこからどこまでが住所で、どこからどこまでが手紙文なのか、非常に読みづらいものもある。
- ③ 住所欄などの指定がない絵はがきを利用するときは、中央に線を引き、片側に住所氏名、片側に手紙文を書くように教えたらどうだろう。線を引くという発想が、なかなか出ないようだ。

4. 日本の家に住む

目標

ごく身の回りの生活スペースについてと、そこで快適に過ごすための最低限の知識を身につける。

授業で準備するもの

部屋や、日本家屋の見取り図を大きく書いたものがあると便利。

1 間取り

テキストの間取りは、1Kアパートの一例である。しかし、すべての学習者がアパートに住んでいるわけではない。

*部屋の広さ、設備、家賃などについて、学習者一人一人に自分の生活環境と比較させる。

賃貸アパートの家賃は、地域によってかなりの開きがある。教師側は、周辺地域の平均的家賃を頭に入れておく必要がある。

「家賃」という語彙も確実に教える。支払い方法はいろいろある。大家さんではなく、不動産屋に払う場合もある。また、銀行振り込みで払うケースも多い。

賃貸方法、敷金などは、「第三部 3 住居」の項で勉強する。

日本では、建物の広さを表す単位として、「㎡」よりも「坪」をよく使う。「1坪」は2畳相当で、「畳一枚の形は正方形の半分である」ということは、日本に長くいる外国人にも案外知られていない。

地方によって畳の大きさが若干違うようだが、ここでは1枚180cm×90cmとして考えている。

部屋に上がる時は、履物を脱ぐ。また、畳の部屋に入る時はスリッパも脱ぐ、ということも指導する。

ここでは、日本語の意味や語彙の説明も大切だが、実際に行動に移せるように指導することが大切である。日本は湿気の多い国であることに気づかせて、快適に住めるよう指導するのがポイント。ベッドで万年床になりやすいので注意する。

2 おふろ

- ① 生活環境によっては、共同浴場を利用する学習者も少なくない。もしマナーが悪いと、その人と同じ出身の国の人がすべて断られるようなケースも生じる恐れがある。
- ② まず体や頭を洗ってから浴槽に入る。身体をきれいにしないうちに入ってはいけない。
- ③ 「タオルを浴槽の中に入れない」「浴槽の中で体や頭を洗わない」「風呂から上がる時浴槽の栓を抜かない」「脱衣場をぬらさない」「髪の毛やごみを始末する」など指導する。
- ④ 日本では温泉でも水着を着て入ることはしない。

3 トイレ

- ① 日本に長くいる学習者でも和式便器の使い方に戸惑っている人が多い。外国に行くと、